仙台市災害ボランティア応援紙＜　第 12 号 6/7　＞

復興 ニッポン cha･cha･cha!

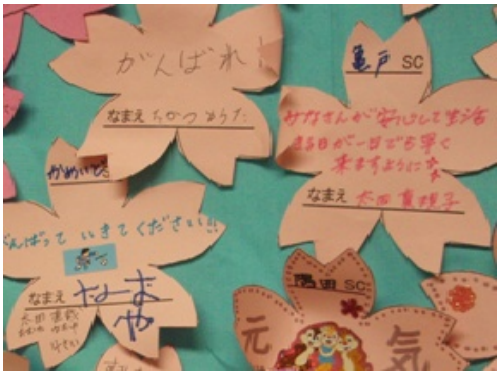
被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする＜支え合い、助け合い、協働＞のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの？」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。（※cha は「care」「help」「act」の頭文字）

発行：仙台市災害ボランティアセンター

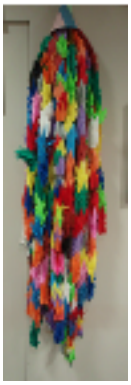
◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、１日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。

USA 座間キャンプガールスカウトが「バックパック作戦・子どもたちから子どもたちへ」というプロジェクトを立ち上げ、世界の小学生がリュックサックに同じ年代の日本の被災した小学生に向けた物資を入れてくれました。仙台市災害ボラセンでいただいたのは、カタール国のドーハに集められたものです。



2000 人分の桜のメッセージカードや寄せ書き。



折り鶴やフランス在住の日本の女の子からのお手紙も（右）。

現場で活動する災害ボランティアの声をお届けします♪

自分が震災を体験したことで、また、テレビや新聞などで震災の映像を見て、「助けたい」「役に立ちたい」そんな一心で駆けつけてくれた災害ボランティアがいます。今回は、被災者支援の現場で直接聞いた彼らの思いや感じたことをお伝えしていきます♪

仙台市南部津波災害ボランティアセンター

（5 月 5 日取材）

【スタッフの声・こえ】
事前の安全確認を徹底しています。

一日約 200 件弱の依頼があります。マッチング数としては一日 30 件くらいです。東部道路から通行規制の地域までの作業になり、緊急地震速報が出た場合の対策として、ボランティアの皆様には携帯ラジオを持って行ってもらっています。

センターからの移動はマイクロバス（約 23 人）やワゴン車（約 6 人）に乗り合わせて、七郷や笹屋敷地区へ移動し作業をしてもらっています。

多いのが七郷周辺では神屋敷地区、笹屋敷地区で荒浜の方には津波で流されてしまい家がありません。六郷周辺では種次地区からの依頼が多くあります。藤塚、井土、二木あたりはやはり津波で家が流されてしまい建物がない状況です。

危険な場所に派遣するわけにはいかないので、まずは依頼受付時に電話で詳細（土台のズレや壁の崩落）を確認し、事前に建築士に建物の現地調査をしてもらってから派遣するように徹底しています。屋根瓦や土台、壁など危険度を判定してもらい、調査書を元に派遣する、しない、を判断しながら、安全確認を徹底しています。建築士さんもボランティアで毎日きてくれているんですよ。本当に助かっています。

たいていのボランティアさんは飲み水など持参してきていますが、まだ電気や水道が復旧していない現場もあるので、１グループに手洗い用の 20 リットルの水 1 つは必ず持って行ってもらっています。ウエットティッシュのようなものも用意していますが、水で手を洗いたいですよね。その他に防塵マスク、ゴーグルなどを必ず渡します。ヘドロ消毒用の石灰が町内会ごとに個人宅に配布されているので泥かきを始める前にまいて消毒をしてもらってから作業しています。（仙台市南部津波災害ボランティアセンター長）

【ボランティアの声・こえ】
自転車で 30 分かけて来ました。

東京出身ですが今は弟の所に同居していて、今日は自転車で来ました。明日から仙台の大学に通うことになっています。

テレビで見た以上に被害が酷くて驚きました。農家の方の畑の泥よけをやりました。ひたすら畑の表面のかわいた泥をよけるのですが、畑が広くて終わるのかなと思いながらやりました。作業自体は重労働ではなかったのですが、今日だけでは終わらなかったので明日もボランティアに頼むのかな…。（大学生　男性　仙台市）

【ボランティアの声・こえ】
気軽に参加できますね。

春休み最終日なので友達と一緒に来ました。合羽、長靴、軍手など事前にホームページで準備物を確認して用意して来ました。ゴーグルが無くて心配だったのですが、貸出してくれました。

このボランティアセンターはいつまでやるんですか？まだまだやることが多いと思いました。今後は土日しか来れないけれどまた来たいと思います。（大学生　男性　仙台市）

【ボランティアの声・こえ】
有給休暇を利用して東京から来ました。

実家が仙台です。有給休暇が 40 日程あったので有給を使って来ています。今日で 20 回くらいになると思います。初めのうちは合羽とか借りていましたが、合羽、長靴、軍手などは自分で揃えました。海が近くで確かに危険かな、と思う事があります。私は市内なので土地感がありますが初めての方は不安だと思うので、作業を始める前に「海はあっち、地震が起きた際にはこっちに向かって走る」などのレクチャーがあってもいいかなと思いました。それと今は GW 中なので人手も多いようですが、やることは沢山ありますね。これからは広報も充実していかないとまだまだ人手は足りないと思います。（30 代　女性　東京）

【スタッフの声・こえ】
3 週間くらい前からほぼ毎日来ています。

高校を卒業して入学式までのほぼ毎日ボランティアに来ています。最初は青葉区ボラセンで派遣される方で行っていましたが、運営スタッフが足りないということで声をかけられました。

回収した長靴洗いやブルーシートの泥拭きなどをしています。年齢に関係なくいろんな方と話ができるので貴重な経験です。北海道、佐賀、四国、松山など遠いところからも手伝いに来てくれる方がいるので驚きながら嬉しく思います。継続して来てくれるように「お疲れ様です」の声掛けを意識して行っています。

派遣さんが帰ってきたのでこれから明日の準備にかかります。貸出品の片づけの後にミーティングをします。ミーティングの内容は依頼数とのマッチング、マッチング先で必要な貸出品の準備などです。

明日が入学式なのでしばらく来れないのが残念です。学校の方が落ち着いたらまた来たいと思います。（大学生　女性　仙台市）

【ボランティアの声・こえ】
継続した活動をお願いします。

実家が若林区遠見塚なので、仕事の休みを利用して横浜から来ました。今日で 3 回目ですが、休み中は続ける予定です。今まで引越しの手伝いや泥かきの作業をしましたが、実際に現場に行ってみると、TV で観ていたのとは全く違って生々しい印象を受けました。10 人で作業した畑の泥よけの時は、始めた瞬間に「これは大変だ！」と感じました。1 軒の対応だけでも大変なので、一人ひとりに出来ることは限られているけれど、継続した活動が本当に求められていると思いました。（会社員　男性　横浜市）

【ボランティアの声・こえ】
後方支援から現場支援へ。

今日が現場での初めての活動です。青葉区から原付で来ました。震災直後は、まずは自分の出来るところからと思い、義援金で協力してきました。友達から南部津波災害ボランティアセンターの事を聞いたので、現場でボランティア活動をしてみようと思い、足を運びました。

今日の作業は、がれきの撤去やビニールハウスの解体をしました。依頼者の方が喜んでくれて、やりがいを感じたので明日もまた参加しようと思っています。（大学生　男性　仙台市青葉区）

● 仙台市津波災害ボランティアセンター ●

６／１から、南北２つのセンターを統合して津波被害地域全体の支援を行っています。
詳細情報は WEB で確認してください。http://www.ssvc.ne.jp/

設置場所　元気フィールド仙台・宮城野体育館（仙台市宮城野区新田東４-１-１）
電話番号　要請用（ボランティアに頼みたい方）：０２２（２３１）１３２０
　　希望者用（ボランティアをしたい方）：０２２（２３１）１３２６

● 各区のボランティアセンターをご活用ください ●

仙台市社会福祉協議会、各区の社会福祉協議会に設置しているボランティアセンターでは、市民のみなさんからのボランティアの依頼を受け付けております。お気軽にご依頼ください。

仙台市ボランティアセンター
仙台市青葉区五橋 2-12-2　仙台市福祉プラザ４階　電話：022 - 262-7294

各区ボランティアセンター

青 葉 区	仙台市青葉区二日町 4-3	電話：022-265-5260　080-5949-7445（震災関係専用）
宮城野区	仙台市宮城野区原町 3-5-20	電話：022-256-3650　080-5949-8735（震災関係専用）
若 林 区	仙台市若林区保春院前丁 3-4	電話：022-282-7971　080-5949-8733（震災関係専用）
太 白 区	仙台市太白区長町南 3-5-23	電話：022-248-8188　080-5949-7600（震災関係専用）
泉　　区	泉区七北田字道 48-12	電話：022-372-1581　080-5949-7884（震災関係専用）

編 集 後 記

震災の前日に目からウロコのセミナーに出ました。『自分の持っている価値と相手の持っている価値を等価交換する』という内容です。自分のニーズと相手のニーズがマッチングすればお金が介在せずとも契約成立。その中で必要な考え方は「自分には何が出来るだろう」ということでした。そして翌日 3.11。まさに「自分には何が出来るだろう」が究極に問われた日の始まりでした。

善意でおこなわれてきた泥のかき出しや瓦礫の撤去作業が、被災して職を失った方々の雇用になればという話しも出てきています。『自分の持っている働く意欲』と『雇用を創出したい』が等価交換する日も近いのかな、と思います。間もなく３ヶ月。「自分には何が出来るだろう」を考える日々は続きます。（佐藤奈於子）

発　行：仙台市災害ボランティアセンター　広報班　早川
TEL022－262－7294　http://www.ssvc.ne.jp/　当紙が WEB で読めます！
編　集：広報ボランティアチーム　遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田、佐々木、黒田
連絡先：仙台市災害ボランティアセンター　E メール sendai - vc@poppy.ocn.ne.jp